



連合青森 東青地協

NEWS 6

2019

発行日：2019.9.2
編集・発行：東青地域協議会
編集人：大澤 祥宏

平和行動 i n 広島・長崎に東青地協役員 2 名・青年役員 2 名を派遣

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

第二次世界大戦の太平洋戦争のさなか、アメリカが 8 月 6 日に日本の広島に、8 月 9 日には長崎に原爆（原子爆弾）が落とされ、2 つの都市は破滅し、あれから 74 年が経過いたしました。

今年の平和行動（広島・長崎）に、東青地協より役員を各 2 名派遣し、広島には、東青地協役員 新井副議長（自動車総連）と小山内幹事（J P 労組）。長崎には、東青地協・青年連絡会役員 作田議長（電力総連）と石郷岡事務局長（全水道）に平和行動に参加をいただきました。平和行動を通じ、悲惨な戦争の状況を現地に外向き経験することは、なかなか機会が無ければ得られないものであり、平和行動にて参加いただいた 4 名は非常に貴重な時間を過ごしてきました。

今回、参加いただいた皆さんが得た経験を地協ニュースに掲載し、参加できなかった役員の方々の皆さまや、構成組織組合員の皆さまへご周知させていただきますので、今回、参加できなかった方も、本ニュースを通じて、改めて、戦争の悲惨さとして平和に生活できている喜び等を感じていただければと思います。また、小山内幹事が記述しているとおり、平和行動に参加しなくとも、「核兵器廃絶に向けた 1000 万署名」活動は、青森にいながらも出来ますので、引き続きのご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

核兵器廃絶1000万署名

No More HIROSHIMA! No More NAGASAKI! No More Nuclear Weapons!

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・シバクシヤ。この他は、核兵器廃絶と恒久平和を願う国際連合・日本国民のからの呼びかけです。しかし、核兵器は現在に世界に約14,450発（2018年6月現在）が存在し、核兵器の廃絶から約70年経ち、核兵器は依然として存在し、核兵器の廃絶と恒久平和を願う国際連合・日本国民のからの呼びかけです。

核兵器不拡散条約（NPT）とは、核兵器の開発、製造、保有を規制し、核兵器廃絶を目指す国際条約です。核兵器の開発、製造、保有を規制し、核兵器廃絶を目指す国際条約です。

連合、原水禁、KAKKINは、5年に1回開催されるNPT条約の定期会議に出席して、核兵器廃絶を目指す国際条約に賛同し、世界の平和と核兵器の廃絶を求め、日本国民のからの呼びかけです。日本国民のからの呼びかけです。



〔広島参加〕東青地域協議会 副議長 新井 春美（自動車総連）
〈ピースウォーク〉平和ヒロシマ集会の前に広島平和記念公園の原爆ドーム前に集合し、気温37℃の猛暑の中各班に分かれ連合広島青年委員会・女性委員会の委員が案内役のピースガイドを務め原爆ドームをはじめとする公園内の慰霊碑等を回りながら由来や歴史について教えていただきました。また、会場受付周辺では原爆パネル展が開かれていて、そこでは核兵器反対への署名活動も行われていました。「ピースウォーク」終了後、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館や平和記念資料館を見学し当時の原爆の威力や被害の大きさについて改めて学びました。

〔連合2019平和ヒロシマ集会〕広島市内の上野学園ホールにて開催され、多数の折鶴が参加者から献納されその後、若者からのメッセージということで高校生平和大使が「ビリョクだけどもリョクじゃない！」を合言葉にし、国連などで核兵器廃絶と平和な世界の実現に向けての活動報告がされました。2020年核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議に向けた平和シンポジウム「核兵器廃絶1000万署名に向けてキックオフ！」が行われその中で、被害者からの訴えということで広島在住の語り部箕牧智之さんによる被爆当時の写真や絵を使いながら戦争のこと、原爆のこと戦争が終わった後の広島の様子やご自身の人生について語られました。

〔連合・原爆死没者慰霊式〕平和ヒロシマ集会終了後、広島平和記念公園に移動し参加者全員で献水や献花を行いました。今回の平和行動に参加し、改めて原爆や戦争の恐ろしさ認識し二度と同じことを繰り返してはいけなさと感じました。

〔広島参加〕東青地域協議会 幹事 小山内 豊（J P 労組）
原爆投下から74年。その一瞬で14万人もの尊い命が奪われ、その後も数多くの方が、放射線による後障害や精神的な苦しみを多く残しています。東日本大震災の何倍もの人命が、自然災害ではなく、人間が人間を殺していたという事実があったことを悲しく思いました。青森市でも空襲の被害に遭いましたが、その悲惨な過去を伝えていく方が少なくなってしまう、青森で生活していると、戦争とは無縁な世界にいる人がたくさん居るのではないかと感じました。この悲惨な過去の事実を二度と繰り返さない、戦争、原爆のない世界を作り上げて行かなくてはならないにもかかわらず、日本は核兵器不拡散禁止条約に参加していません。今、私たちに出来る事は、核兵器不拡散条約再検討会議にあわせて核兵器廃絶に向けた1000万署名への協力を青森に住んでいる皆さんにお願いすること、戦争のない平和な世界を作りあげていき、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて取り組んでいくことを後世に伝えていかなければならないことと思います。

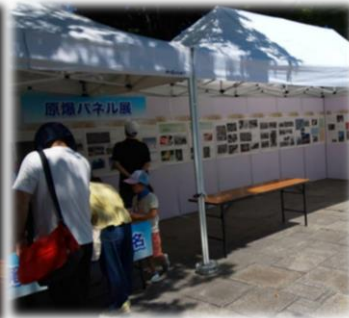
最後に、今回のこのような貴重な機会を設けて頂いたことに感謝すること、この平和行動で一番印象に残ったことが、広島平和記念資料館を見学した中学生ぐらいの少女が見学を終えて資料館から出てきた時に泣きながら今にも倒れそうになりながら、友達に支えられて歩いていた姿を見て、このような子供たちを悲しませることのない平和な世界を作りあげていき、後世に伝え、恒久平和を実現していくことだと感銘を受けた平和行動でした。

〔長崎参加〕東青地域協議会 青年連絡会 議長 作田 晃司（電力総連）
私は、連合平和行動（長崎）に参加して、実際の被爆した現地に初めて足を運びました。8日は、「連合2019平和ナガサキ集会」に参加し、3700人規模の集会で核兵器廃絶と世界平和の実現を求める活動を行いました。また、長崎原爆の被爆者から74年前の被爆体験の話があり、原子力爆弾の脅威、その後の被爆者の生活を聞くと、これからの世界に核兵器は絶対に在ってはいけないと改めて実感させられました。最後に連合長崎の方々が歌と舞台で原爆被害の実相などを表現した構成詩を披露され、「For The Peace of World」をみんなで合唱しました。会場が一体となり、大変感動しました。9日は、「ピース・ウォーク」に参加させていただきました。連合長崎の青年および女性メンバーで構成されたピースガイドの方の説明により、平和公園内や周辺および記念碑等を巡りながら詳しく説明していただきました。その中でも、平和公園内の平和の泉に書かれている「のどが乾いたままいませんでした 水にはあふらのようなものが一面に浮いていました どうしても水が欲しくてとうとうあふらの浮いたまま飲みました」に記載してあるとおり、その当時の悲惨な状況がこの場所で起きていたと考えると胸が痛くなりました。今ある生活がどれだけありがたいか改めて感じました。

最後になりますが、万灯流しに参加し、平和への思いを万灯に記載し、浦上川に流しました。この2日間、連合青森・東青地協の役員または関係者の方々には色々貴重な経験をさせていただき大変感謝しています。今後1人でも多くの方が現地に足を運んでいただき、経験していただければ、恒久平和に繋がると感じました。2日間ありがとうございました。



(左) 小山内幹事 (右) 新井副議長



〔長崎参加〕東青地域協議会 青年連絡会 事務局長 石郷岡 諒（全水道）
2019年8月8日（木）10時に連合平和行動のため、長崎へ行った。

1日目は、青森からの移動の後、平和ナガサキ集会、2020年核兵器不拡散条約再検討会議に向けたシンポジウムに参加した。2つの集会は、外務省の方から、諸外国と日本の核兵器についての活動の報告や長崎大学の教授から核兵器に関する現在の国際的な流れの講演などの内容であった。中でも非常に印象に残ったのは、被爆者からの体験談である。修学旅行で戦争の体験談は拝聴することがあったが、被爆者の方からの体験談は初めてであった。涙ながらに自身の経験をここには書くことができないくらい生々しくお話しされていて、核兵器の悲惨さを再認識し、在り来りな感想ではあるが、改めて、この悲惨さを忘れてはならない、後世に伝えていかなくてはならないと思った。

2日目は、長崎原爆犠牲者慰霊平和式典、ピースウォーク、万灯流しに参加した。平和式典では、献水、献花ののち、黙祷、平和宣言などの内容であった。献水という次第があることは、恥ずかしながら初めて知ったことであつたし、原爆犠牲者のことを考えられた内容であるなど印象に残った。ピースウォークでは、防空壕や遺壁、当時の地層等を実際に見ながら、説明を受けた。実際に見ることで、威力の凄まじさを感じた。万灯流しでは、核兵器のない世界を祈りながら、万灯に自分の思いを記し、川に万灯を流した。万灯流しをもって、今回の平和行動は終了した。

今回の平和行動で、長崎市民の原爆に対する意識の高さを感じた。平日にも関わらず、人数も多く、サイレンが市内中に鳴り響いていて、街中が静まり返る。あとで聞いた話だが、市内を走っている車も停車して、黙祷するそうである。青森市では、原爆投下の日時を知っている人も、黙祷する人は少数であると思う。長崎や広島のことを忘れないため、後世に伝えるために、黙祷することも大事であると思うので、青森市でも黙祷するようにしてほしい。今回の平和行動は、核兵器に関して、考えさせられた非常に良い経験であった。このような貴重な機会を与えてくださった、連合青森東青地域協議会の皆様に心から感謝します。



(左) 作田青年議長 (右) 石郷岡青年事務局長

